O 081

短期間に経験した高粘稠性 *Klebsiella pneumonia* による肝膿瘍４症例に関する検討

[1]東京医科大学　微生物学講座、[2]東京医科大学病院　感染制御部、[3]新座志木中央総合病院　消化器内科、[4]戸田中央臨床検査研究所　細菌検査室

○山口 哲央[1,2]、安西　秀聡[3]、川又　大右[4]、向坂　元秀[4]、粟野　直樹[1]、松本　哲哉[1,2]

【背景】*Klebsiella pneumoniae* による原発性肝膿瘍は，1990 年頃から台湾を中心に報告がみられ，敗血症などの重症の病態を伴うことから，問題となっている．市中感染や，家族内伝播なども認め，その広がりが懸念されているが，日本においては報告されている症例数は少ない．今回我々は，短期間のうちに肝膿瘍の膿検体から，*K. pneumoniae* を４件検出した．臨床経過と共に，菌株の解析結果を報告する．

【症例】 症例１は 80 歳女性，前日から 38℃の発熱が持続するため A 病院受診．上気道炎の診断にて一旦帰宅となるも，同日夜間，39℃の発熱および尿便失禁認め，同病院緊急搬送となる．症例２は 79 歳女性，一ヶ月前からの胃部不快感に加え発熱を認めたため，B 病院受診．症例３は 67 歳男性，既往歴に脳梗塞，糖尿病がある．体調不良を自覚し，近医受診するも炎症反応高値持続し，B 病院紹介受診．症例４は 68 歳男性，既往歴に糖尿病がある．朝からの体調不良を理由に B 病院受診．これら４つの症例は，全て炎症反応高値を認め，腹部 CT 上肝膿瘍が疑われたため入院．経皮ドレナージ後の膿培養にて *K. pneumoniae* が検出され，抗菌薬投与にて治癒に至っている．短期間に複数例発症した事例であり，特定地域での伝播を疑ったが，これら４症例の接点は見つからなかった．

【解析結果】症例 1, 3, 4 の菌株は，*magA* および *rmpA* が陽性で高粘稠性の *K. pneumoniae* であった．莢膜血清型は１型（K1），MLST は ST23 であり，台湾等で問題となっている菌株と同じタイプのものであった．症例２の菌株は，*magA* および *rmpA* が陰性であり，粘度も低く，K1 株ではなかった．

【考察】*K. pneumoniae* による原発性肝膿瘍は，肝膿瘍自体が稀な疾患であることから，遭遇する機会は少ない．今回我々は短期間に４症例から *K. pneumoniae* を検出し，貴重な症例と考えられた．今後，臨床情報も詳細に収集し，併せて報告する予定である．非会員共同演者：高野捺美（文京学院大学）

O 082

小児における LZD 静注薬使用例 37 例の検討

[1]千葉県こども病院　感染症科

○深沢 千絵[1]、朽名　悟[1]、星野　直[1]

【目的】リネゾリド（LZD）は、海外では小児においても標準的な MRSA 治療薬として使用されているが、本邦では 2012 年４月まで小児適応がなかったため小児での使用報告例は少ない。

【方法】2008 年３月より 2011 年 10 月までに当院で LZD を投与した 15 歳未満の症例について、患者背景、LZD 投与背景、有効性、副作用等につき診療録をもとに後方視的に検討した。

【結果】LZD は全例静注薬を使用しており、対象症例は 26 症例 37 件で男児７例、女児 19 例、年齢は新生児２例を含む０歳から 15 歳までで、1 歳未満が 12 件であった。基礎疾患は、心疾患７例、脳外科疾患５例、血液腫瘍性疾患４例、重症心身障害児３例、皮膚軟部組織疾患 2 例、整形外科・泌尿器科・形成外科疾患各 1 例、未熟児 1 例で、基礎疾患のない症例は 1 例のみであった。対象となった感染症は、手術部位感染 11 件、皮膚軟部組織感染 10 件、敗血症・菌血症８件、脳脊髄液シャント感染６件、肺炎５件、腸炎１件、骨髄炎１件、尿路感染１件であった。14 件で LZD 投与前に他の抗 MRSA 薬が使用されており、うち９件は他剤の治療効果が不十分で LZD に変更されていた。原因菌判明例では、methicillin-resistant *S. aureus* (MRSA)が 15 件、methicillin-resistant *S. epidermidis* (MRSE) が６件であった。LZD の有効性は、無効 1 件、判定不能 4 件で、その他 32 件は臨床的に有効と判断されていた。有害事象としては、4 例で白血球減少が認められたが、いずれも非重篤で軽快した。うち 3 例は血液腫瘍性疾患で化学療法中であった。

【結論】小児の LZD 静注薬使用例 37 件を検討し、重篤な副作用はなく、有効性も良好であった。術創や深部組織の MRSA、MRSE 感染症に多く使用されており、小児においても組織への移行性が良好な抗 MRSA 薬として LZD の有用性が期待される。